

卒業生からのメッセージ



桐生大学短期大学部
生活科学科 食物栄養コース

2006年卒 関田 祐里

〈義明苑ショートステイ相生 栄養士〉

在学中の思い出は？

私は平成18年に卒業し、社会人9年目です。学生時代は、フットサルサークルに入り、仲間と楽しく汗を流し大会でゴールを決めた時の仲間の笑顔や声援を今でもよく思い出します。

私が料理に興味を持ったのは、テレビで“料理の鉄人”を見ていたことがきっかけです。いつも熱意ある料理への姿勢に感動を受けました。

その後の調理実習では、念願が叶い、特別教授だった陳健一さんが目の前で作った香辛料の効いた麻婆豆腐の味は忘れられません。楽しく指導して下さい、学生を笑わせていたのを覚えています。皆が麻婆豆腐に夢中の中、私が陳さんを見つめていると、優しく話しかけてくれたのを覚えています。

また、短大に入学してから買ったギターで、同じ短大（デザイン科）に通う双子の姉と初めて人前で演奏したことも今に繋がる大切な思い出です。

仕事のやりがいとは？

私は調理員として入職し、現在は老人福祉施設（ショートステイ相生）の栄養士として働いています。

献立作成や発注、事務処理などが主な業務です。また、現場で盛り付けや調理なども行っています。献立を作成するだけでなく、毎日、調理の現場に立ち、調理師さんたちとコミュニケーションを取りながら、食事提供を行う中で、学ぶことが多くあります。



ごはんを楽しみに待ってくださっている利用者様や周りで元気よく働く職員などからの「美味しかったよ」の一言や一緒に見られる一人ひとりの笑顔が私の活力となっています。

高齢者の食事は食べやすさの工夫がとても重要になります。現在、食事形態の見直しや手作りのソフト食提供を行っています。一口でも多く食べて頂けるよう、より良いものを提供し続けたいと思います。



後輩へのメッセージ

食事は人の心を変えてくれます。悲しい時や辛い時、どんな時でも“ごはん”を食べると元気になり、自然と笑みがこぼれて、食から温かさを感じることができます。

真心を込めて作った料理は周りの人たちを幸せにする力があると信じています。大切なのは、幸せにしたいと想う気持ちや笑顔に繋がる喜びを思い描く想像力だと考えています。人それぞれ違うものだから、そこにやりがいがあるように思います。

私は食事提供するだけでなく、写真を撮り、料理本を作ったり、絵を描いて飾ったり、厨房職員皆でギター演奏したりと楽しみながら仕事をしています。皆さんも業務をこなすだけでなく、自分の好きなことや得意なことを活かし、多方面から笑顔に繋がる喜びを伝えられると良いと思います。また、管理栄養士を取得すると更に専門的な知識を活かした栄養面での生活のサポートができると感じています。

